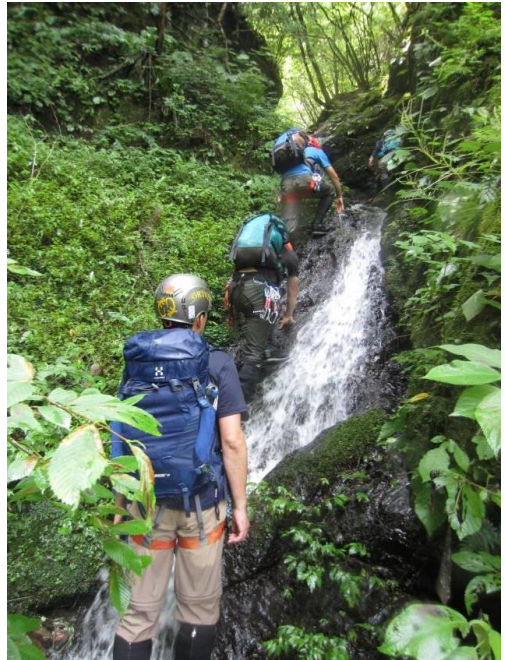


## 奥多摩：シンナソー

- ◆日程 2017年8月19日(土)
- ◆メンバー L：小林、須田k、前田、小山田、岡村
- ◆天候 晴れのち曇り

初沢の方を対象に倉沢谷-長尾谷を計画した。大気が不安定との予報が出たので、午後の早い時間には下山できる場所に変更した。シンナソー、何やら面白い響きの沢名で気になっていた沢でもある。五日市線に池本さんが乗っていない。電車に乗り遅れたようだった。本人も初めての沢を楽しみにしており参加出来ず残念だった。五日市からバスに乗り換え。この新型バスには携帯スマホの充電用電源が窓側に装備されていた。最近の進歩はすごい。藤倉で降りる。素晴らしい青空で気持ちも軽く入渓した。

シンナソーの入り口は貧弱、上流から流された風呂桶らしきが横たわっておりゴミ沢の気分まで漂う。ところが登り始めると全てがナメと小滝で構成された「これぞ滝登りの楽しみ」と実感させてくれる沢だった。沢幅が狭く枝が被っている所では蜘蛛の巣が先頭の顔をなげる点がマイナスポイントである。最初は小さいながらもゴルジュ帯で兩岸が立ち小滝が面白いように続く。3段



10mの滝は前田さんがノーザイルで抜けたので上からロープを垂らして貰った。ゴルジュを抜けると暫くの伏流、でもすぐに小滝群、現る！3段15mは難しそうと思わせた。近寄って見れば行けそうと須田さんが下段を突破する。上段5mも濡れる事を嫌がらなければ難しくはなかった。気がつけばあれよ、あれよと二俣まで来てしまった。全員が滝登りを楽しみ、夢中になってしまった。左に入り最後の詰め、登山道に出た。短いけれど遊べる楽しい沢だった。

930m 三角点近くで沢装備を解く。入渓時の青空は曇天に変わっていた。幸いに天気は持ちそう、当初の計画どおりに払沢の滝に下山する。ここで数馬に降りる須田さんと別れた。

浅間嶺から払沢の滝までのハイキングコースは楽しい道であった。浅間尾根は江戸時代には炭、塩や米を運ぶ道で峠には代官の休み処や茶屋があり、歴史の道だと看板を見て知った。桧原村は「東京のスイス」とのイラスト地図もあった。そして急坂を降りそこに建った家が昔の生活を偲ばせる。このコースは関東ふれあいの道でアップダウンも少なく自然も綺麗なお勧めできるハイキングコースだと思う。払沢の滝で急に現代の観光地に変わり滝見物をしてバス停に無事、到着した。バスで五日市に戻り一番近い居酒屋で乾杯した。暫くすると雷雨、土砂降りですらッキーであった。ほんの一杯が「それなりのいっぱい」となり Last One、Last One が何回も繰り返された。さらに電車の中でも続き、いい気分で帰宅した。

CT：藤倉バス停 8:50－シンナソー出合 9:20－二俣 11:10/11:30－登山道  
11:50/12:15－浅間嶺 13:20－払沢の滝 15:10－払沢の滝入口バス停 15:30

(記：こばやし)